

平成30年度 高千穂町立押方小学校 学校評価書

本年度の学校経営ビジョン 『思いやりの心にあふれ、主体的に学び、自身をもってよりよく生きようとする心身共にたくましい児童を育成する。』

(4段階評価 たいへんよい=4点 おおむねよい=3点 もう少し=2点 改善が必要=1点) 平均 2.5点 ※(4+3+2+1)÷4=2.5

重点目標	主な達成手段	目指す児童像	方策・手立て	自己評価		結果の考察・分析及び改善策等	学校関係者評価コメント ◇…プラス面、◆…マイナス面、☆…思いや願い
				項目別	総合		
1 基礎学力の定着と主体的に学ぶ力の育成	① 児童全員が「わかる・できる」授業、意欲をもって主体的に学ぶ授業づくりを目指した教師の日々の授業改善と授業研究会を中心とした職員研修の充実	○主体的に学ぶ子ども ○基礎学力が身に付いた子ども	○「わかる、できる」の4つの視点（「定着や習熟を図る時間の確保」「指導内容の精選とテンポや間の配慮」「児童の実態を加味した授業内容」「教師の指示や発問」）を意識した授業の工夫・改善 ○授業改善を目指した授業研究会の充実	3.35	3.09	4つの視点を柱として日々の授業改善に努めた。また、一人2回以上の研究授業を行い、授業の在り方について職員で学び合った。児童アンケートの「授業に進んで取り組んでいますか」や「授業は分かりますか」の回答でも、肯定的な回答が多いことから、児童の学習意欲の向上もうかがえる。今後も、「わかる・できる」授業に向け改善を図り、児童の学力向上を目指していく。	◇担任の励ましの言葉は、子どもにとって「やる気」となり努力に結びついていると思う。 ☆小学校は基礎段階。「わかる・できる」が重要になってくると思う。 ☆先生方も忙しいと思うが、頑張りをお願いしたい。 ☆児童が少ない分、教師の目が届く。学力が向上するのは必然的だと思う。今以上に教師の資質が問われると思う。
	② 家庭学習の習慣化、及び読書活動の充実と「家読」の推進	○家庭学習に取り組む子ども ○読書に励む子ども	○「8つの光」の資料配付、学級通信や参観日、個人面談等における家庭学習協力への呼びかけ ○図書通信や家読推進活動の取組による家読の啓発 ○図書館の整備	2.83		家庭学習については、児童クラブに所属している児童が多く、児童クラブにいる時間で宿題や家庭学習をほとんど済ませているため、帰宅してからの学習に取り組んでいない傾向がある。 家読については、高学年になるほど取り組めていない状況にある。また、親子で取り組む読書においても家庭の事情から実施できないことが多いようである。家庭学習と家読については、家庭教育を含めて改善策を検討し、保護者に関心を高めてもらう手立てが必要である。	☆学校任せでなく、家庭での取組も必要と思う。 ☆家庭学習の大事さを感じる。子どもに合わせてゆっくり時間をかけ、誉めながら進めている。 ☆家庭では保護者が頑張らなければ仕方ないと思う。 ☆保護者が忙しいとは思いますが、できるだけ「家読」には付き合ってもらいたい。 ☆児童クラブで過ごす時間に、「習字」や「そろばん」等を身に付けさせることはできないものだろうか？
2 自尊感情の高揚と思いやりの心の育成	① 自尊感情を高め、自信をもつと共に、自他のよさや違いを認める心の育成	○自分のことが好きで、周りのお友だちの良さに気付く子ども	○互いを理解し、よさや頑張りを認め合う学級づくり	3.65	3.46	児童のアンケートから「自分のことが好き」と答えている児童が多く、日々教師が友達よさやがんばりを認める称賛を中心とした指導や場を多く取り入れている成果の表れだと考えられる。今後も継続して取り組んでいく。	◇押方小の児童は、正直で素直である。 ◇現代社会において最も大切なことであり、取組の成果が、子どもたちを見ても謙虚に現れている。 ◇家でも友だちの話をよく聞くことができ、学級での「良い雰囲気」を感じることができる。 ◆自分が好きの前に、自分勝手な子ども（親も）が多いのでは…。 ☆「人を誉める」ということは難しいが、素晴らしいことだと思う。 ☆今後とも取組を継続して欲しい。
	② 心のもったあいさつと相手を思いやる言葉遣いや行動の定着、及びいじめの根絶	○元気なあいさつができ、相手を思いやる言葉遣いや行動ができる子ども ○いじめをしないう子ども	○毎月のあいさつ立番 ○アンケート、教育相談、フラワー委員会の実施 ○いじめや差別のない望ましい人間関係の醸成を図る常時指導の充実	3.46		「元気なあいさつ」については、学年が上がるにつれ今一步などところがある。あいさつの意義を理解させながら、「いつでも、どこでも、誰にでも」心のもったあいさつができるよう取り組ませていく。いじめや差別のない望ましい人間関係の醸成については、今後も日々の児童の言動に十分アンテナを張り、適宜指導を継続していく。	◇通学路で会った児童が元気にあいさつをしてくれて、凄く気持ちがよかった。 ◇通知表の中でも、この項目に対する評価が「◎」で本人自身が満足しており自信を付けている。 ◆高学年になると、人の目を気にする傾向があるようだ。 ◆年上の人に対する言葉の使い方の指導をお願いしたい。 ☆我慢の心・思いやりは集団の行動にて養成されると思う。 ☆今後とも取組を継続して欲しい。
	③ 思いやりの心を育む教育活動（道徳教育・人権教育、ボランティア活動等）の充実	○思いやりの心をもった子ども	○児童の実態や教育活動に合わせた学級活動や特別の教科道徳の充実 ○ボランティア活動の意義への理解 ○朝ボラ、みどボラの継続	3.27		参観日にも道徳教育や人権教育に取り組むなど、意図的・積極的に児童の思いやりの心を育む教育に努めた。 朝のボランティア活動（朝ボラ）については学年の実態に応じて取り組ませ、また、花壇の手入れ等の緑化活動（みどボラ）については、緑化担当を中心に活動推進を図っている。今後、児童の主体的な活動となるよう取組の意義を理解させながら継続していく。	☆大変嬉しく喜ばしいことと思う。 ☆素晴らしいことなので、継続した取組をお願いしたい。
3 体力と健康生活習慣実践力向上	① 体力向上プランに基づく計画的・継続的な取組と体力づくり運動の充実	○体力を身に付けた子ども	○体力向上プランをもとにした学級全体での取組 ○児童相互の交流を図る。みんなで楽しむ体力づくり	3.65	3.46	体力づくり運動や体育の授業の充実により、体力テストA判定の児童が増加し体力の向上を図ることができた。 また、昼休みには多くの児童が運動場に出て学年分け隔てなく遊ぶ姿を見ることができた。	☆子どもの体力づくり・心構えは日々の取組の延長と思う。 ☆子どもたちが外で遊び回る姿を見るとうれいものだ。 ◆健康が第一である。子どもが苦手と感じている分野には自信を付けてほしい。
	② 自己の健康生活に目を向け実践する能力の育成	○自分の健康に目を向け、実践する子ども	○よりよい生活習慣の定着を図る指導の工夫 ○学期1回のすこやか週間取組の充実 ○「すこやかファイル」や保健だより発行、学校保健委員会等を通じた家庭との連携	3.24		立腹については、保護者とも連携を図りながら重点的な指導が必要である。また、テレビやゲーム・スマホなどのメディア接触においても、制限の必要性を啓発しながら児童の健康生活等への関心や実践力を高めていく。	◇家庭での約束事（保護者の指導）が大事だと思う。 ◆スマホ等の使い方は気になる。 ☆親も、テレビやスマホ・ゲームでの子守に注意をして欲しい。 ☆昔は、食事中はテレビを消すという指導もあった。
	③ 「1.3kmウォーク」運動の推進	○嶽宮神社からしっかりと歩いてくる子ども	○PTAと連携した「1.3kmウォーク」の呼びかけ及び推進	3.48		児童や家庭の状況のあるが、多くの児童が「1.3kmウォーク」で登校することができた。 保護者や地域の方々の奉仕活動等による通学路の環境整備により、児童は安全に登校することができている。	◇自分の体をことを考えながら取り組んでいる。 ☆朝、登校する児童の声が元気に聞こえて、自分も元気が出てくる。 ☆今後とも取組を継続して欲しい。全員の参加を希望する。
4 地域と共に歩む信頼される学校づくり	① 積極的に地域とつながり、地域のよさにふれ、地域を誇りに思う教育活動の充実	○地域に関心をもち関わりをもちながら、「押方」のことが好きな子ども	○地域素材や人材を生かした教育活動への取組	3.65	3.50	生活科や総合的な学習「ふたがみ」等で、地域を題材にした教育活動を計画し実践してきたことで、「押方」のことが知り、「押方」のことが好きと答える児童が多かった。今後も、将来的に「押方」に貢献できるような児童の育成に努めるよう教育活動の充実を図る。	☆「押方」を好きと言える児童が増えるように、指導をお願いしたい。将来、地元に戻ってくる子どもが少しでもいれたい。 ☆子ども同士はみんな仲良しで安心している。子どもだけでなく保護者同士も何でも言い合える心と心のつながりが大事だと思う。 ☆学校を基軸とした地域造成の必要性と我が母校の思いこそ、その思いを子どもに伝授されると思う。
	② 家庭や地域への積極的な情報提供と学校評価を有効活用した学校改善の推進		○学校通信、ホームページ、保健だより、学級通信等の充実 ○学校評価を活用した学校改善	3.56		ホームページのこまめな更新と、児童の声が聞こえる学校通信、季節に応じた健康に関する配慮事項を掲載した保健だより等により、本校の教育活動等の情報提供を図ることができた。 学校評価のアンケート結果を真摯に受け止め、取組や指導の改善・工夫を行っている。	◇学校通信により、児童のいない家庭、地区にも学校行事、児童の様子を知ることができている。 ☆押方小でも、できるなら複式学習は避けて欲しいと思う。
	③ 教育に携わる者としての高い倫理観・使命感の維持と協働して取り組む教職員集団づくり		○風通しのよい職場づくりとコンプライアンス意識の高揚 ○教職員評価の有効活用と現職教育の充実、所外講師の招聘や校外研修への積極的な参加等による資質能力の向上	3.25		教職員一人一人が教職員としての使命感やコンプライアンス意識、「チーム押方」としての協働意識を高もち、風通しのよい職場づくりに努めた。このことは、児童理解や教育活動の充実にもつながる。今後も、意識して継続して取り組んでいく。	☆昔と比べると、今の子どもたちは考えもつかない程、成長していく。その分、先生たちは大変なことだと思うが頑張ってもらいたい。 ☆教職員の方々の日頃のご尽力にお礼を申し上げる。今後は更に学校運営に応援させていただく。